

5月公開講座（5月29日（日）オンライン開催）

日本の リプロダクティブ・ライツの問題を考える

講師とテーマ

- 塚原久美（つかはらくみ）さん（RHRリテラシー研代表、中絶ケアカウンセラー）
私は約20年間日本の中絶問題を研究してきました。昨年末、中絶薬の承認申請が行われましたが、今のままでは問題山積です。3月にWHOが発行した『中絶ケアガイドライン』に照らして日本の現状と課題を検討します。
- 佐久間順子（さくまよりこ）さん（コムスタカ事務局長）
2011年よりコムスタカでの活動に参加。2021年に多言語情報サイト「日本でのにんしん」を立ち上げる等、移住女性の問題を中心に活動しています。妊娠をした技能実習生3名のケースを中心に移住女性の妊娠出産問題についてお話しします。

世界の多くの国で使用されている中絶ピルは、日本では認可されていません。そのため、女性に負担が大きく費用も高額な方法が用いられています。また母体保護法は中絶に「配偶者の同意」を必要としているために、女性が望んでも、配偶者やパートナーの同意を医療機関に提出しないと中絶が受けられません。中絶を希望しながらできず、誰にも相談できずに孤立出産に至り、新生児死亡になって、女性が罪に問われる事件が生じています。

さらに日本に住んで働く外国人技能実習生は、妊娠によって解雇されたり、帰国を強要されることがあります。自国では使える避妊方法や中絶ピルが日本では使えず、妊娠したら孤立出産に追い込まれる例があります。ベトナムからの技能実習生だったリンさんは妊娠を相談できず、自宅で死産し、その遺体を保管して「死体遺棄罪」で逮捕されました。有罪判決に対して無罪を主張し、最高裁判所に上告しています。

リプロダクティブ・ライツの問題は女性の人生に大きな困難をもたらします。暴力とも密接にかかわります。日本の状況を知って考え、変えることを一緒に考えませんか。

【日 時】 2022年5月29日(日) 14:00~16:10

【参加費】 当会会員無料、一般1000円

【定員】 100名（先着順）

【申込】 Peatixにて受付中（会員も無料チケットをお求めください）

下のリンクか右側のQRコードからお申込みください。

<https://peatix.com/event/3226684/view>

申し込みQRコード

